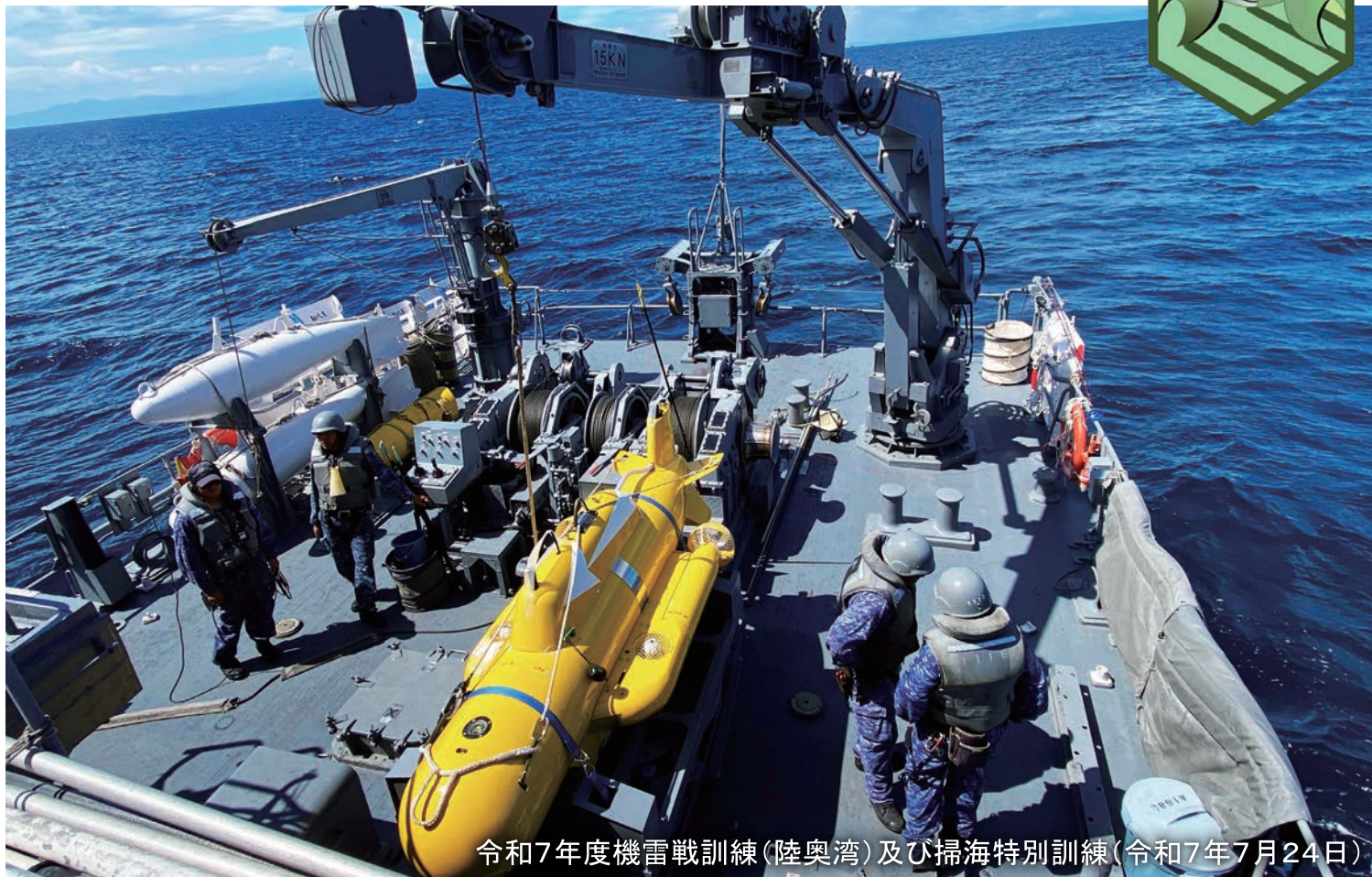




# 東北のかなめ

vol.70 (2025.9)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、  
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、  
関連する情報について、年4回、発信します。



令和7年度機雷戦訓練(陸奥湾)及び掃海特別訓練(令和7年7月24日)

## 【CONTENTS】

特集1 東松島市図書館 リニューアルオープン

特集2 滝沢ライスセンター 建設工事安全祈願祭

### 東北防衛局の活動

令和7年度優秀工事等顕彰状の授与

令和7年度東北防衛局長感謝状の贈呈

田植え体験を通じた日米交流を支援

米国主催訓練「レゾリュート・フォース・

パシフィック」に関する連絡調整

令和7年度三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会

航空機の定期修理の原価監査

新幹部の紹介(8月1日付)

### 地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

岩手県滝沢市 ～岩手駐屯地と地元住民との交流

陸上自衛隊岩手駐屯地 ～盛岡さんさ踊りと災害派遣

防衛省 ～自衛隊施設の最適化事業

廣瀬産業株式会社 ～廣瀬産業が誇る“技術”

株式会社ミワ電工

～装備下北(4)整備場新設等電気その他工事

令和6年4月から増築・改修のため休館していた東松島市図書館（宮城県東松島市）が、令和7年6月30日、リニューアルオープンしました。リニューアルオープンを祝い開催された式典には、事業主である東松島市の渥美巖市長をはじめ、東松島市議会の齋藤徹副議長、東北防衛局の池松英浩局長などの関係者のほか、矢本西小学校の2年生の児童が出席しました。

図書館は、旧矢本町と旧鳴瀬町の合併により、東松島市が誕生する前の平成4年度に、松島飛行場の運用に伴う読書や学習への影響を緩和する民生安定施設として整備されました。その後、平成17年の合併による人口の増加のため、開架スペースが狭いという課題が生じていました。また、図書館周辺は宮城県の津波浸水想定の上水エリアとなっています。

これらのことを踏まえ、東松島市は、一時避難所としても活用できる2階建て延べ床面積約338平方メートルを増築し、再整備しました。総事業費は、約3億円であり、そのうち防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく補助金約8千万円が充てられました。

式典で、渥美東松島市長は、東北防衛局などの関係者への感謝を示し、「市民の皆様が、この施設を大いに活用され、学習による探求する心の醸成、読書を通じた親子のふれあい、心の豊かさを養うこと、そして元気なまちづくりの一助となることを祈念している。」と挨拶しました。

続いて、池松東北防衛局長は、リニューアルオープンへの祝辞を述べるとともに、「子供の頃、図書館でたくさん本を読んだことが、その後とても役に立っている。」ことを紹介し、児童達に読書を促しました。



リニューアルオープンした図書館



挨拶をする渥美東松島市長



挨拶をする池松局長



リニューアルオープンを祝いテープカット

5月16日、岩手県滝沢市において、ライスセンター（粃乾燥調製施設）の建設工事着手に先立ち、安全祈願祭が行われました。式典には、本建設工事の施主である新岩手農業協同組合（JA新しいわて）の苅谷雅行代表理事組合長をはじめ、滝沢市の武田哲市長、東北防衛局の池松英浩局長など、関係者約40名が出席しました。



安全祈願祭の様子

JA新しいわてが現在運営しているライスセンターは、昭和60年度の整備から40年経過し、老朽化による著しい機能低下が見られ、施設の稼働に支障を来しています。そのため、JA新しいわてが、岩手山中演習場等の運用に伴う農業経営への影響を緩和する民生安定施設として、新たなライスセンターを整備します。総事業費は約9.8億円であり、そのうち、防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく補助金約6.6億円を充て、今年度末までの完成を目指しています。

滝沢市は、米の食味ランキングにおいて7年連続「特A」と評価された「銀河のしずく」などの優良品種の栽培適地に指定され、また、輸出用米の取り組み地域ともなっています。新たな滝沢ライスセンターは、粃を内部から均等に乾燥できる遠赤外線乾燥機を採用し、完成後、乾燥時間の短縮や米の高品質化につながることを期待されています。



祝辞を述べる武田滝沢市長

式典で、武田滝沢市長は、東北防衛局などの関係機関の協力に感謝を示し、「本施設が整備されることにより、高品質の米が安定して生産され、消費者の方々にも安定供給されることで、より一層食料安全の確保に寄与するものと期待している。」と祝辞を述べました。

続いて、苅谷代表理事組合長は、関係機関への感謝を述べ、「本施設の整備により、米の適期刈り取り、高品質出荷、作業の効率化、コスト低減が図られ、農業振興に大きく寄与するものと考えている。」と挨拶しました。



挨拶をするJA新しいわての苅谷代表理事組合長

## 令和7年度優秀工事等顕彰状の授与

7月1日、令和7年度優秀工事等顕彰状授与式を開催しました。

東北防衛局は、建設工事等の入札参加者の受注意欲を高め、建設工事等の品質確保等を図ることを目的に、施工状況等が優れ、他の模範となるにふさわしい工事等を顕彰しています。

式典で、吉田調達部長は、「今般の建設業界は、技術者や作業員の高齢化や担い手の不足、資材調達の不安定化など、業界を取り巻く環境も大きく変化しています。受彰企業の皆さまは、そのような厳しい諸条件の下、良質な防衛施設の整備に向けて、その力を遺憾なく発揮し、工事を完遂したことは、高く評価されるものです。」と挨拶し、優秀工事を施工した株式会社小坂工務店、多田建設株式会社、寺下建設株式会社、友住設備工業株式会社、穂積建設工業株式会社、株式会社ミワ電工及び優秀工事技術者9名に対し、顕彰状を授与しました。



優秀工事顕彰を受彰された企業の代表者等

顕彰種別	受注者名	優秀工事名・優秀工事技術者名
優秀工事 優秀工事技術者	株式会社小坂工務店 (青森県三沢市)	三沢米軍(3)管理棟(O436)新設建築その他工事 監理技術者 齊藤 太 現場代理人 西塚 成仁
	多田建設株式会社 (東京都江東区)	多賀城外(5)宿舍改修建築工事 監理技術者 佐々木 和則 現場代理人 同上
	寺下建設株式会社 (青森県八戸市)	海自八戸(4)鉄塔新設等建築その他工事 監理技術者 赤坂 進 現場代理人 同上
	友住設備工業株式会社 (青森県十和田市)	装備下北(4)整備場新設等機械工事 監理技術者 畑山 文寿 現場代理人 同上
	穂積建設工業株式会社 (青森県八戸市)	海自八戸外(5)宿舍改修建築工事 監理技術者 作田 憲哉 現場代理人 赤坂 謙太
	株式会社ミワ電工 (青森県五所川原市)	装備下北(4)整備場新設等電気その他工事 監理技術者 下山 知 現場代理人 川村 大起

(優秀工事の受注者名の50音順。敬称略)

## 令和7年度東北防衛局長感謝状の贈呈

6月10日、池松東北防衛局長は、小川原湖漁協（青森県東北町）の濱田正隆代表理事組合長（当時）に、感謝状を贈呈しました。濱田前組合長は、組合長に就任後、約20年の長きに渡り、三沢飛行場水域や三沢飛行場などの防衛施設の安定的かつ円滑な運用のために、ご尽力されました。



濱田前組合長（左）と池松局長（右）

7月10日、池松東北防衛局長は、米海軍三沢航空基地隊司令官を離任するポール・A・ハックラン海軍大佐に、日米両国の信頼と協調関係の増進に大きく寄与した功績をたたえ、感謝状を贈呈しました。

同日、指揮権交代式が行われ、ハックラン大佐からジェレミー・N・ライオン海軍大佐に指揮権が引き継がれました。着任したライオン大佐は、「三沢基地は重要な戦略的拠点。即応性と柔軟性を持ち、パートナーシップとプレゼンスを通じて力を発揮していく。」と挨拶しました。



池松局長（左）とハックラン大佐（右）



挨拶をするライオン大佐

## 田植え体験を通じた日米交流を支援

6月4日、青森県つがる市立車力小学校の5年生の田植え体験の授業に、米陸軍車力通信所の軍人等が参加し、日本の稲作に触れながら、児童との交流を深めました。

東北防衛局は、在日米軍と地域の相互理解を促進し、信頼関係の醸成を図るため、在日米軍関係者と地域住民との日米交流の促進に取り組んでおり、この取組みの一環として、車力通信所との連絡調整や通訳支援を行いました。

この日に向けて英語を勉強してきた児童達は、軍人等とジェスチャーを交えた英語でコミュニケーションをとりながら、泥だらけになって、田植えを楽しみました。



泥だらけになりながら、田植えを体験



田植え作業の後は、みんなで記念撮影

## 米国主催訓練「レゾリュート・フォース・パシフィック」に関する連絡調整

7月9日から8月4日までの間、航空自衛隊が参加して、米国主催訓練「レゾリュート・フォース・パシフィック」が行われました。

三沢基地では防空指揮所での共同活動や共同患者後送訓練、また、訓練期間を通して米軍航空機の拠点としての活動が実施されました。三沢対地射爆撃場では共同滑走路被害復旧訓練、松島基地では米軍戦闘機展開訓練が実施されました。

東北防衛局は、訓練の実施に先立ち、飛来する航空機や訓練内容等を地元自治体に説明しました。また、訓練の実施中は、本局の職員を三沢防衛事務所や松島基地に派遣し、日々の訓練開始・終了などの訓練情報を地元自治体に提供しました。

訓練の実施に当たり、地元自治体は、地域の不安を解消するため、訓練情報を周知するなどして、円滑な訓練の実施についてご協力をいただきました。

また、7月26日、松島基地の企画により奉仕活動が行われ、東松島市や米軍の皆さまと、東北防衛局の職員が、野蒜海岸(東松島市)の清掃を実施しました。



三沢防衛事務所に派遣された本局職員



野蒜海岸(東松島市)での奉仕活動

## 令和7年度三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会

8月7日、三沢市国際交流教育センターにおいて、令和7年度三沢飛行場周辺航空事故連絡協議会を開催しました。

この協議会は、米空軍三沢基地、航空自衛隊三沢基地、三沢飛行場周辺の区市町村・警察・消防などで構成され、三沢飛行場周辺において航空事故や航空事故に伴う災害が発生した場合の対処に万全を期すため、東北防衛局が招集・運営し、相互の緊密かつ迅速な連絡調整体制の整備について、連絡協議を行っています。

今回の協議会では、中部上北広域事業組合消防本部から米軍三沢基地との消防相互応援協定について、空自第3航空団から空自における航空事故対応について、それぞれ説明があり、航空事故等の対処に関する情報共有が図られました。



開催の挨拶をする佐藤企画部長

## 航空機の定期修理の原価監査

株式会社ジャムコ機体整備工場(宮城県岩沼市)では、陸上自衛隊の連絡偵察機LR-2などの航空機の定期修理や改修を行っており、東北防衛局郡山防衛事務所は、同社整備工場において、原価監査を行っています。

原価監査とは、装備品等の製造、整備等を請け負った企業に支払う代金の確定等を行うため、企業が支出した費用について、資料等に基づいて確認し、適否を審査することをいいます。

ジャムコ機体整備工場では、複数機の定期修理等が並行して実施されています。円滑な定期修理等のためには、スケジュール管理が重要であり、郡山防衛事務所では、同社整備工場と緊密に連携をとり、審査を実施しています。



原価監査の様子。帳簿や現場での工数などを確認(6月18日)

## 新幹部の紹介(8月1日付)

調達部次長 白石 弥生 (しらいし やよい)

【前職:整備計画局施設整備課】

東北防衛局は初めての勤務となります。これまでの建設行政の経験を生かし、管内の自衛隊および在日米軍の施設整備における様々な事案対応に取り組む所存ですので、よろしくお願いいたします。



## 東北防衛局では 事務官・技官を募集しています

詳しくは、  
防衛省HPを  
ご確認ください。



### 『自衛隊・在日米軍・地域を繋ぐ架け橋として』



建設現場の監督確認(陸自郡山駐屯地)  
(令和7年7月18日)

### 『技術の知識や経験を日本の防衛のために』

## 岩手県滝沢市 ～岩手駐屯地と地元住民との交流

滝沢市は、県都盛岡市の北西部に位置し、秀峰岩手山をいただく豊かな自然と、充実した都市基盤が調和したまちとして人口増加を続け、平成26年1月には村から市へ移行するなど発展を遂げてきました。



「南部片富士」の名で知られる秀峰岩手山。滝沢市の北西に位置し、四季折々豊かな表情を見せる。

昭和32年(1957年)に滝沢村一本木地域に開設された陸上自衛隊岩手駐屯地は、北東北最大の岩手山中演習場を有し、その隊員の大部分が岩手県内出身者で構成される郷土の部隊として、日夜厳しい訓練に励んでいます。

駐屯地の地元、一本木地域では、地域住民と駐屯地の相互理解と地域発展を期して、「一本木二十二日会」という団体が組織されています。

会発足当時の駐屯地司令の誕生日を冠した同会は、前身の団体も含め、60年以上の歴史を持ち、一本木地域住民と歴代駐屯地司令をはじめとする幹部隊員等の多くが会員となり活動しております。

特に、例年行われている「そば食い」は、住民と隊員と一緒に地元産のそば打ちから始めるのが特徴で、地元産のそば粉、地域住民が持ち寄った山菜などで作ったそばをみんなで楽しむことが恒例となっています。

そのほか、総会・交流会なども定期的に行われるなど、相互理解が深まっており、地域全体で「郷土の部隊を支える」意識が醸成されています。

岩手駐屯地の隊員の皆さんの活躍を、引き続き市として支援してまいります。



一本木二十二日会「そば食い」。地域住民と駐屯地隊員と一緒に打ったそばを楽しむ。



総会・交流会も定期的に行われる

## 陸上自衛隊岩手駐屯地 ～盛岡さんさ踊りと災害派遣

### ◇盛岡さんさ踊りへの参加及び照明支援◇

盛岡さんさ踊りは、昭和53年(1978年)の開催以来、今年で48回を迎え、「世界一の太鼓パレード」として、毎年8月1日から4日間、盛岡市の中央通で行われます。

岩手駐屯地は、盛岡さんさ踊りへの照明協力を毎年行うとともに、駐屯地さんさ踊り部が「ONE TEAM 岩手駐屯地 ～県民とともに未来へ～」のローンを掲げた横断幕を先頭に、駐屯地司令以下約250名が参加しています。

開催期間中、照明協力に当たった隊員は、献身的に支援を行い祭りの盛大な開催に貢献しており、駐屯地さんさ踊り部は地域とともにある岩手駐屯地を印象づけています。



ローンの横断幕を掲げ  
先導する駐屯地司令



真夏の盛岡を照らす照明器材

### ◇山林火災に伴う災害派遣活動～地上から空中放水を支援(岩手県大船渡市・陸前高田市)◇

令和7年2月19日～24日の大船渡市綾里地区山林火災、2月25日～26日の陸前高田市山林火災に続き、2月26日13時頃、大船渡市赤崎町において3回にもわたる山林火災が発生しました。地元消防等による消火活動を実施するも鎮火に至らないことから、それぞれ岩手県知事から東北方面特科連隊長(岩手駐屯地)に対し、山林火災に伴う消火活動に係る災害派遣要請があり、陸上自衛隊第1ヘリコプター団(木更津駐屯地(千葉県))等により、空中消火活動等を実施しました。

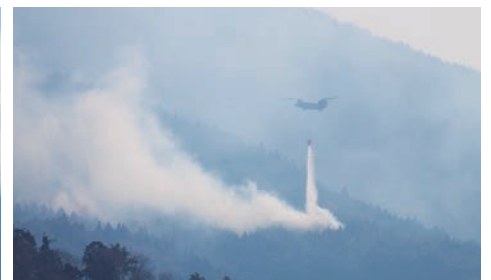
3回目に発生した大船渡市赤崎町における山林火災は、ようやく鎮圧に至り、3月14日16時30分、岩手県知事から災害派遣撤収要請があり、活動を終了しました。

CH-47による空中消火活動  
1296回(約6480t)

大船渡市・陸前高田市における山林火災において、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。



警察、消防との連絡調整(左)と空中消火用バケットの取り付け(右)



上空からの山林火災の様子(左)とCH-47による空中消火活動(右)

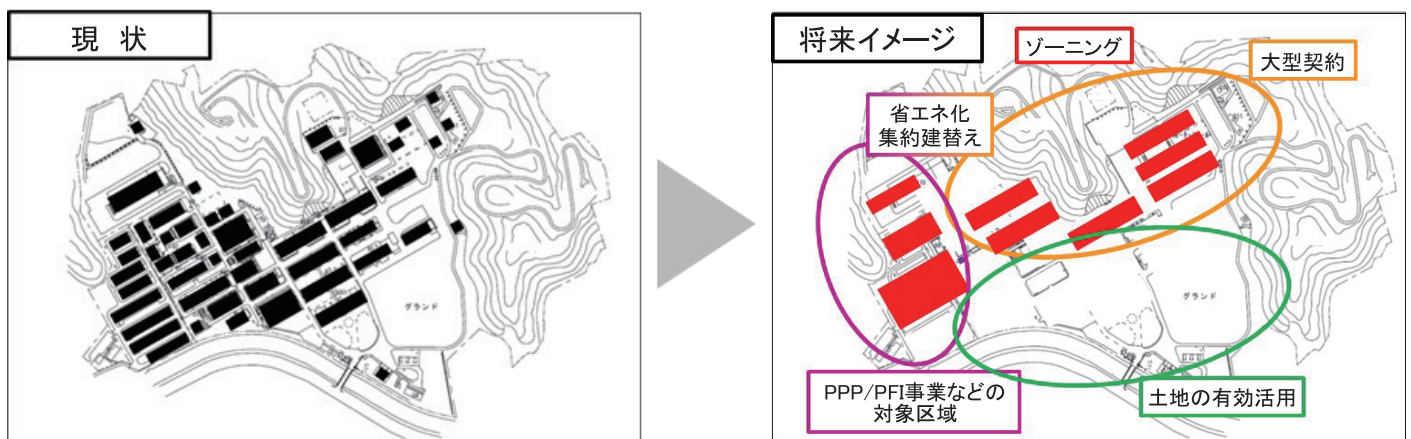
## 防衛省 ～自衛隊施設の最適化事業

防衛省・自衛隊では、防衛力整備計画に基づき2027年度までの最優先課題の一つとして、自衛隊施設の強靱化を加速させることとしています。平素においては自衛隊員の安全を確保し、有事においても容易に作戦能力を喪失しないよう、主要司令部の地下化や構造強化、施設の離隔距離の確保のための再配置、集約化等を行うとともに、隊舎・庁舎等の整備や老朽化対策を行うこととしています。

自衛隊施設は築年数が古いものが多く、施設の約4割が旧耐震基準で建設されているため、駐屯地や基地などの全体(283地区)が保有する20,000棟以上の自衛隊施設を調査し、建替えなどの整備計画(マスタープラン)を作成して、優先順位を付けながら施設の建替えなどを効率的に進めるという「自衛隊施設の最適化事業」を実施しています。

東北防衛局における自衛隊施設の最適化事業では、運用上重要な4地区の駐屯地・基地等から効率的に進めるべく、令和6年度には設計及び一部の工事の契約を締結しました。

### 自衛隊施設の最適化イメージ



東北防衛局は、自衛隊施設の最適化事業を含めて、令和6年度に約900億円の建設工事等の発注を行いました。また、令和7年度も約700億円の建設工事等の発注を行う計画です。

東北防衛局は、この自衛隊施設の最適化事業を完遂して、防衛力抜本的強化の実現に向けて、より多くの企業の皆様に入札にご参加いただけるよう、技術提案・交渉方式において共同企業体の構成員数の制限を緩和するとともに、地域貢献度を評価項目に加え、総合評価落札方式では、工事種別の分離又は工事範囲を分割など、競争性を確保した上で、適切な発注規模を設定するほか企業と技術者の施工実績、経験に関する要件の緩和に取り組むほか、工事確認・検査の遠隔臨場の対象工事の拡大による効率的な工事の推進、現場閉所型週休2日工事による労働環境の改善、物価等上昇への対応を契約書に記載するなどの入札に参加しやすい環境を整えるように努めています。

企業の皆様におかれましては、自衛隊施設の整備事業にご協力をお願いします。

## 廣瀬産業株式会社 ～廣瀬産業が誇る“技術”

廣瀬産業株式会社は、昭和46年(1971年)、現在の秋田県由利本荘市において、創業しました。当社は、厚手で硬く丈夫な重布(じゅうふ)の縫製工場として、国内有数の規模を持ち、陸上自衛隊の天幕や背のう(ザック)などを製造しています。ほかにも、登山用テント、レインウェア、防火服、感染防護衣など、幅広い製品を製造しています。

当社は、ひとつひとつの手作業から、最新機械を駆使する作業まで、高い技術を誇っています。高い防水性と透湿性を持つゴアテックス製品の縫製工場にも認定されており、ゴアテックスのレインウェアを多く生産しています。

針と糸を使わず、高周波による熱で、重ねた重布を溶着するウェルダ加工の技術も、当社が持つ技術の一つです。陸上自衛隊の天幕は、縫い穴で防水性を損なわないよう、ウェルダ加工の技術を活用し、製造しています。

当社は、現場の声を聴き、民生品の製造で培った技術・経験を踏まえた改善も提案しています。当社は、陸上自衛隊の各種背のうを製造しており、最近では、多くの隊員が使用する背のうについて、背面に鳥居型のフレームを備えることを提案しました。これにより、ショルダーハーネス(肩にかける部分)の取付位置が従来よりも自由に調整可能となり、フィット感が向上しています。

当社は、現在の由利本荘市に創業し、50年を超えました。地域との繋がりをますます大切にしていきたいと考えており、由利本荘市のふるさと納税の返礼品の提供や親子ミシン教室の開催などに取り組んでいます。

今後も、「Made in JAPAN」にこだわり、製品の品質と生産性の向上を日々追求していきます。



廣瀬産業株式会社



ウェルダ加工の作業(上)と加工後の天幕(下)。生地に針による穴が開かず、防水性を損なわない。



背のうとフレーム。ショルダーハーネスの調整幅が広いほか、背中と背のうの間に空間が確保され、通気性が向上している。

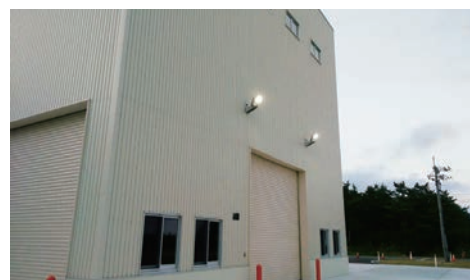
## 株式会社ミワ電気 ～装備下北(4)整備場新設等電気その他工事

当社は1982年の創業以来、青森県五所川原市を拠点に電気設備工事を行っております。「人と技術で世界の夢を叶える」という理念のもと、働く人々の幸福を追求し、地域とともに歩んでまいりました。一般電気設備工事を中心に、低圧・高圧電気設備、再生可能エネルギーなど幅広い分野で安全で確かな施工を心がけています。

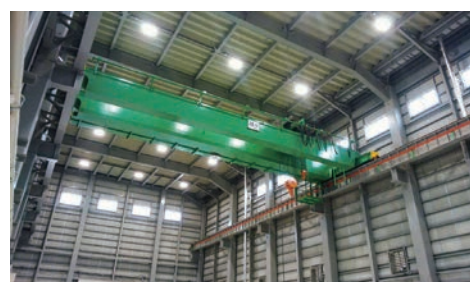


株式会社ミワ電気

今年7月、東北防衛局発注の「装備下北(4)整備場新設等電気その他工事」において、令和7年度優秀工事顕彰をいただきました。当該工事は、防衛装備庁下北試験場における整備場新設や2棟の耐震改修に伴う電気設備工事、31棟の照明更新などを内容とし、複数の工事が同時進行する中での施工でした。現場管理の人数を増やし、部隊・関係者と綿密な打合せを行い、高所作業にあたっては、作業床が広い高所作業車を使用することにより作業効率をあげ工程に遅れがでないよう留意しました。優秀工事顕彰においては、特に引き渡し後の維持管理に配慮した施工を行ったことや会社のバックアップの下、安全対策や品質確保の徹底に努めていたことが評価されたのではないかと思います。



建物外観



整備場内部

現場では経験豊富なベテランの技術と知恵を若手が学び、実践する場面が多くありました。この相互の支え合いが、工事の品質向上と安全文化の定着につながったと感じています。今後も自衛隊施設の最適化事業等に積極的に取り組み、良質な防衛設備と人材育成に力を注ぎ、地域と防衛に貢献できるよう、これからも歩みを進めてまいります。

### 編集後記

7月14日から7月29日までの間、陸奥湾において、令和7年度機雷戦訓練及び掃海特別訓練(日米共同訓練)が実施されました。表紙の写真は、7月24日に実施された訓練見学会での一コマです。

この訓練は、訓練海面内での漁業の操業を制限して行われるため、東北防衛局は、漁業者が被った漁業経営上の損失の補償を行っています。また、訓練に対するご理解を深めていただくため、海上自衛隊の支援を受け、地元自治体などの関係者を対象に訓練見学会を実施しています。

